

2010年度 中間決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円）

| 区 分 | 2010年度 上期実績 A | 2009年度 上期実績 B | 増減額 A-B | 2010年度 通期見込 | 2009年度 通期実績 |
|-------------|---------------------|---------------------|------------|----------------|----------------|
| 営業収益 ※2 | 3,760 | 3,861 | △ 100 | 8,430 | 8,084 |
| 高速道路事業 | 3,463 | 3,571 | △ 108 | 7,840 | 7,517 |
| (料金収入) | 2,981 | 2,973 | 8 | 5,663 | 5,711 |
| (その他) ※3 | 481 | 598 | △ 116 | 2,177 | 1,806 |
| 関連事業 | 317 | 308 | 9 | 638 | 615 |
| (道路休憩所事業) | 207 | 196 | 10 | 380 | 358 |
| (受託・その他の事業) | 110 | 111 | △ 1 | 257 | 256 |
| 営業費用 ※2 | 3,559 | 3,725 | △ 166 | 8,358 | 7,990 |
| 高速道路事業 ※3 | 3,299 | 3,490 | △ 191 | 7,820 | 7,481 |
| 関連事業 | 281 | 253 | 27 | 587 | 557 |
| (道路休憩所事業) | 170 | 146 | 23 | 329 | 300 |
| (受託・その他の事業) | 111 | 107 | 3 | 257 | 256 |
| 営業利益 | 201 | 135 | 65 | 71 | 94 |
| 高速道路事業 | 164 | 80 | 83 | 20 | 35 |
| 関連事業 | 36 | 54 | △ 17 | 51 | 57 |
| 経常利益 | 210 | 148 | 61 | 91 | 124 |
| 中間(当期)純利益 | 130 | 87 | 43 | 61 | 72 |

※1 金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しています。

※2 営業収益及び営業費用は、高速道路事業と関連事業の金額を合計したのから、セグメント間の取引を消去したものですので、単純な合計額とは一致しません。

※3 営業収益/高速道路事業/その他には、高速道路料金無料化社会実験などの減収補てんが含まれています。
また、営業収益/高速道路事業/その他及び営業費用/高速道路事業には、道路資産完成高及び道路資産完成原価がそれぞれ含まれています。

(注) 事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、以下のように事業区分を行っております。

| 事業区分 | 主要内容 | |
|--------|------------------------------|--|
| 高速道路事業 | 高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等 | |
| 関連事業 | 道路休憩所事業 | 高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等 |
| | 受託事業 | 国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等 |
| | その他の事業 | 駐車場事業、トラックターミナル事業等 |

2. 連結営業概況

(1) 高速道路事業の営業状況

高速道路事業の営業利益は、前年同期比83億円増の164億円を計上。

主な要因は、以下のとおりです。

- 営業収益の高速道路料金収入については、通行台数及び走行台キロともに前年同期と比較して増加したことから、前年同期比8億円の増加となっております。
また、無料化社会実験による国からの減収補てん68億円を計上しております。
- 営業費用のうち管理費用は、お客様に安全・安心・快適にご利用いただくための補修工事等の実施及び休日特別割引・無料化社会実験に伴う混雑対策・安全対策等の実施により、対前年同期比27億円増加しております。
一方で、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料が、37億円減少しております。
- 道路資産完成高(収益)及び道路資産完成原価(費用)は、ともに183億円減少しております。

(2) 道路休憩所事業の営業状況

道路休憩所事業の営業利益は、前年同期比12億円減の37億円を計上。

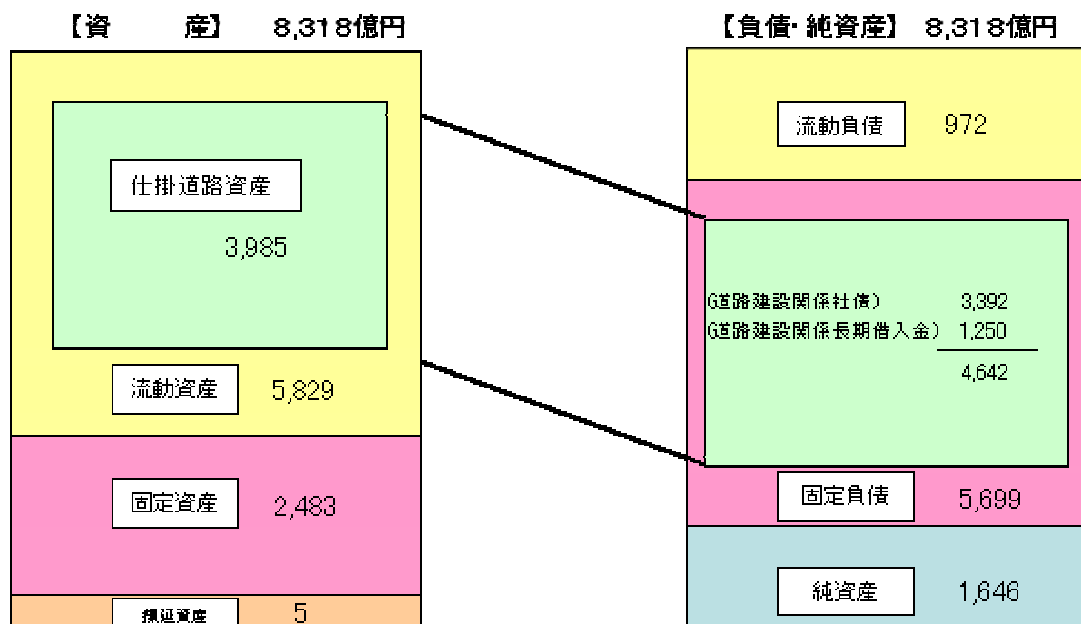
主な要因は、以下のとおりです。

- 営業収益は、昨年9月の大型連休(シルバーウィーク)の反動等で売上高が減少した一方で、テナントが撤退したガスターションの直営への切替等により、対前年度比10億円増加しました。
- 営業費用は、直営切替等に伴い仕入原価が増加したこと、混雑対策や地域産品応援フェア等を行い費用が増加したことにより、23億円増加しました。

3. 財政状態の概要(連結貸借対照表)

◀資産・負債の構造▶

- 道路建設のための固定負債が、仕掛道路資産に対応しています。



1. トピックス(2010年度上期の主な取り組み)

【高速道路事業】実施した主な施策(ネットワークの整備及び各種対策)

■ 新規開通

北関東道(佐野田沼～岩舟 JCT)



平成 22 年 4 月 17 日 開通(L=5.3km)

圏央道(つくば中央～つくば JCT)



平成 22 年 4 月 24 日 開通(L=4.3km)

■ 渋滞対策・交通安全対策

東北道 矢板IC付近



平成 22 年 7 月 16 日 供用開始

東北道(白石IC～仙台南IC間)



平成 22 年 7 月 15 日 完成

■ 無料化社会実験の実施(13路線 約700kmの区間で実施中)



社会実験区間の対策状況



秋田道 昭和男鹿半島IC付近(H22 お盆)

【関連事業】実施した主な施策

■ 休憩施設のリニューアル



関越道 寄居PAリニューアル(H22.6.30オープン)

■ お客様サービスの向上



地域産品応援フェア



【東のふるさと弁当】
藤しやぶとさっぱり海鮮チラシ



割烹おかみの豚肉巻

『どら(道楽)弁当』の新作を発売

2. 個別決算概要(経営成績)

(単位: 億円)

| 区 分 | 2010年度 上期実績 A | 2009年度 上期実績 B | 増減額 A-B | 2010年度 通期見込 | 2009年度 通期実績 |
|------------------|---------------------|---------------------|--------------|----------------|----------------|
| 営業収益 | 3,601 | 3,714 | △ 113 | 8,134 | 7,813 |
| 高速道路事業 | 3,434 | 3,543 | △ 109 | 7,770 | 7,447 |
| (料金収入) | 2,981 | 2,973 | 7 | 5,663 | 5,711 |
| (道路資産完成高) | 382 | 566 | △ 183 | 1,889 | 1,711 |
| (その他) ※2 | 70 | 3 | 66 | 217 | 23 |
| 関連事業 | 167 | 170 | △ 3 | 364 | 366 |
| (道路休憩所事業) | 56 | 59 | △ 2 | 106 | 109 |
| (その他の事業) | 110 | 111 | △ 1 | 257 | 256 |
| 営業費用 | 3,420 | 3,611 | △ 191 | 8,101 | 7,772 |
| 高速道路事業 | 3,274 | 3,473 | △ 198 | 7,767 | 7,439 |
| (道路資産賃借料) | 2,102 | 2,139 | △ 37 | 4,034 | 4,004 |
| (管理費用) | 788 | 766 | 22 | 1,844 | 1,723 |
| (道路資産完成原価) | 382 | 566 | △ 183 | 1,889 | 1,711 |
| 関連事業 | 146 | 138 | 7 | 333 | 332 |
| (道路休憩所事業) | 35 | 31 | 4 | 75 | 75 |
| (その他の事業) | 111 | 107 | 3 | 257 | 256 |
| 営業利益 | 181 | 102 | 78 | 32 | 41 |
| 高速道路事業 | 160 | 70 | 89 | 2 | 7 |
| 関連事業 | 20 | 32 | △ 11 | 30 | 33 |
| 経常利益 | 187 | 105 | 82 | 40 | 49 |
| 中間(当期)純利益 | 101 | 59 | 42 | 11 | 22 |

※1 金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しています。

※2 営業収益/高速道路事業/その他には、高速道路料金無料化社会実験などの減収補てんを含みます。

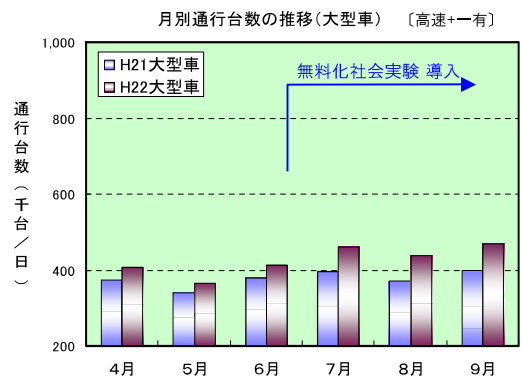
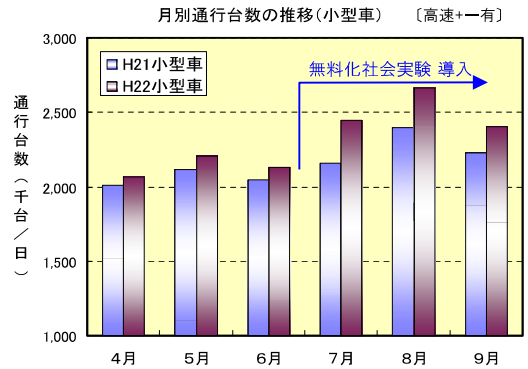
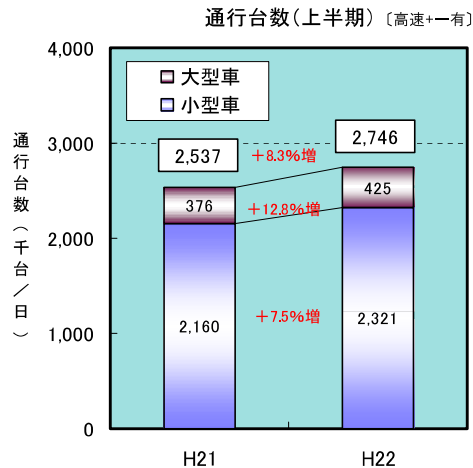
2010年度(上半期)の営業概要 (通行台数)



(1) 上半期の通行台数(前年同期比)

景気回復や6月末から実施した無料化社会実験の影響により、H22上半期の通行台数は約275万台/日(+8.3%増)となりました。

小型車が+7.5%増加、大型車が+12.8%増加しました。



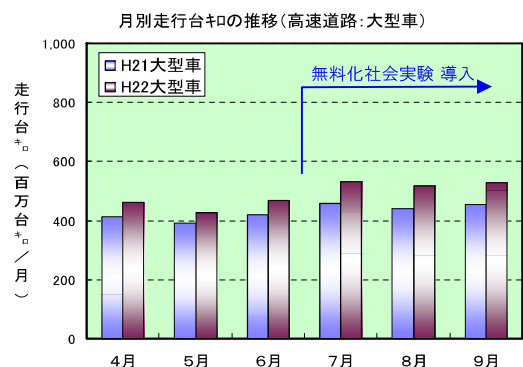
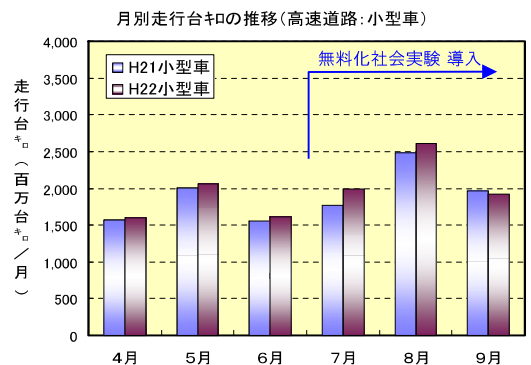
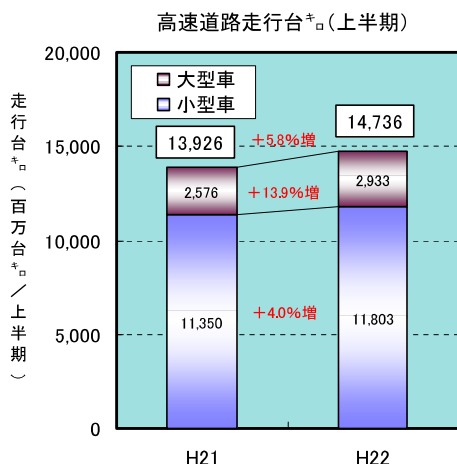
2010年度(上半期)の営業概要 (高速道路走行台^{キロ})



(2) 上半期の高速道路走行台^{キロ}(前年同期比)

景気回復や6月末から実施した無料化社会実験の影響により、H22上半期の走行台^{キロ}は約147億台^{キロ}/日(+5.8%増)となりました。

小型車が+4.0%増加、大型車が+13.9%増加しました。



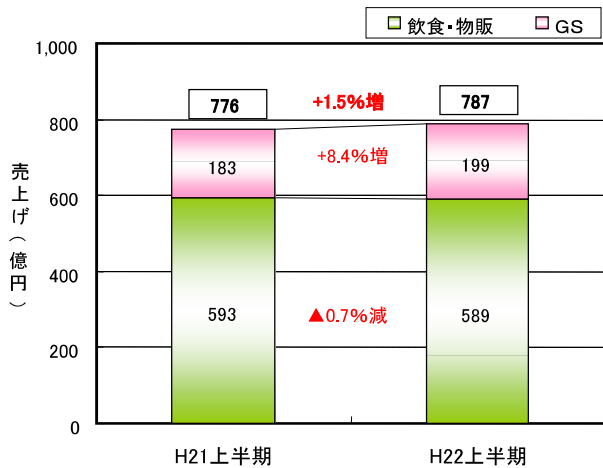
2010年度(上半期)の営業概要 (休憩施設売上高)



(3) 上半期の休憩施設売上高(前年同期比)

飲食・物販とガスステーションを含めた全体の売上高は、787億円(+1.5%増加)となりました。飲食・物販の売上高は、昨年9月の大型連休(シルバーウィーク)の反動等で減少しました。ガスステーションの売上高は、給油数量は減少しているものの、単価上昇により増加しました。

SA・PA売上げ(上半期)



GS給油数量と単価(上半期)

